

1. 略歴

1979年4月	九州大学文学部 入学
1983年3月	同大学同学部英語学英米文学専門課程 卒業
1983年4月	東京大学大学院人文科学研究科英語英米文学専攻修士課程 入学
1986年3月	同大学院同研究科同専攻修士課程 修了
1986年4月	東京大学大学院人文科学研究科英語英米文学専攻博士課程 入学
1988年3月	同大学院同研究科同専攻博士課程 中退
1988年4月	東京女子大学文理学部英米文学科 専任講師
1992年4月	同大学同学部同学科 助教授
1993年9月	ノースカロライナ大学チャペルヒル校 フルブライト交換研究員（～1994年9月）
1997年4月	立教大学文学部英米文学科 助教授
1999年4月	同大学同学部同学科 教授
2003年9月	ノースカロライナ大学チャペルヒル校 フルブライト交換研究員（～2004年9月）
2007年4月	立教大学文学部文学科英米文学専修 教授
2017年4月	東京大学大学院人文社会系研究科 教授

2. 主な研究活動

a 専門分野

アメリカ文学、特にアメリカ南部文学

b 研究課題

アメリカ南部文学の総体的特徴のひとつとして「戦後性」に着目し、ドイツの文化史家ウォルフガング・シヴェルプツシュが2002年に唱えた「敗北の文化」の概念を枠組みとして、日本の近代文学、あるいは所謂「戦後文学」との相対的比較を行う。

c 概要と自己評価

2005年に出版した著書『敗北と文学——アメリカ南部文学と日本近代文学』においてその概要を提示した、19世紀中葉の南北戦争以降の「敗北の文学」としてのアメリカ南部文学と、所謂「戦後文学」を含む日本近代文学の比較検討に関するおおまかな定式ないし視座にしたがって、対象となる両文学それぞれのより細かい時代区分における比較検証を継続的に行っている。2016年度においては日本の「戦後文学」の変容の様相を、60～70年台の大江健三郎、70～80年台の中上健次、80～90年台以降の村上春樹を取り上げて、おのおのが影響下にあると意識しているアメリカ作家（それぞれマーク・トウェイン、ウィリアム・フォークナー、レイモンド・カーヴァー）との比較検証を通じて析出することを試み、英語論文として世に問うた。結果として、すでに前記著書においても指摘していた日本の「戦後文学」の「戦後性」の射程の著しい短さがあらためて問題視されるに至り、2017年度は主として、「十五年戦争」終結直後、日本文壇・批評界を席卷した「戦後文学論争」の具体的な成り行きに着目することで、日本の戦後文学における「戦後性」をより厳密に検証することを試み、その過程で仮説的に逢着した「戦後性」の特徴を、「戦後文学論争」収束後ただちに世に出、その後の「純文学」界を牽引してきた小島信夫の独特の戦後表象、なかんずく『墓碑銘』における「混血性」のうちにひとまず見出して、この「混血性」をアメリカ南部文学に比較的頻繁に現れる黒人と白人の混血児の悲劇、特にウィリアム・フォークナーの『八月の光』におけるそれとを比較対照し、一考を論文として提出した（2018年度中に出版予定）。同時に、戦後文学としてのアメリカ南部文学の完成期とも言える「南部文芸復興期」の文学のうちでも異彩を放つ小説家トマス・ウルフ、さらに「文芸復興期」末期ないし「文芸復興期」以降と称される第二次大戦以降の南部文学からカーソン・マッカーズ、トルーマン・カポーティの文学を検討するとともに、日本の「戦後文学論争」そのものの内実に関して、白井吉見編『戦後文学論争』（全2巻）に所収された、日本の戦後まもなく熱を帯びて展開された論考を各種検討中であり、今後継続予定である。

d 主要業績

(1) 著書

辞書・辞典・事典、アメリカ学会編、『アメリカ文化事典』、丸善、2018.1

(2) 論文

後藤和彦、「変節者アティカス?」、『アメリカ学会会報』、192、1頁、2016.11

後藤和彦、「英文学と日本文学——日本人アメリカ文学者のアポロギア」、日本英文学会関東支部編『教室の英文学』、278-288 頁、2017.5

Kazuhiko Goto, "Post-War Japanese Novelists and American Literature," Oxford Research Encyclopedia of Literature, <http://literature.oxfordre.com/view/10.1093/acrefore/9780190201098.001.0001/acrefore-9780190201098-e-204?rskey=lwhDvo&result=6>、2017.5

(3) 解説

後藤和彦、「書くことと生きること——小説家トマス・ウルフの真実」、トマス・ウルフ『天使よ故郷を見よ』（大沢衛 訳）、下巻、509-520 頁、2017.7

(4) 学会発表

国内、後藤和彦、「再見アメリカの影——戦後文学とアメリカ小説について」、日本アメリカ文学会九州支部（九州アメリカ文学会）大会、佐賀大学、2017.5.13

国内、後藤和彦、「アメリカ・南部・文学」、日本英文学会九州支部大会、長崎大学、2017.10.22

国内、後藤和彦（加藤光也、中村和恵、森慎一郎とともに）、「外人になってしまう——戦後文学と「英語」の問題（シンポジウム「英米文学と日本語）」」、日本英文学会関東支部大会、中央大学、2017.10.28

国内、後藤和彦、「トマス・ウルフと小説以前の問題」、東大英文学会、東京大学法文2号館2番大教室、2018.3.17

(5) 受賞

国内、後藤和彦、科研費審査員として表彰、日本学術振興会、2016.9.30

(6) 研究テーマ

文部科学省科学研究費補助金、後藤和彦、研究代表者、「アメリカ南部文学の戦後性について——戦後日本文学との比較考察」、2016～

3. 主な社会活動

(1) 他機関での講義等

非常勤講師、立教大学、「演習および大学院特殊講義」、2017.4～

その他、関西学院大学大学院、「比較文学特殊講義」、2017.8

(2) 学会

国内、日本英文学会、評議員、2017.6～